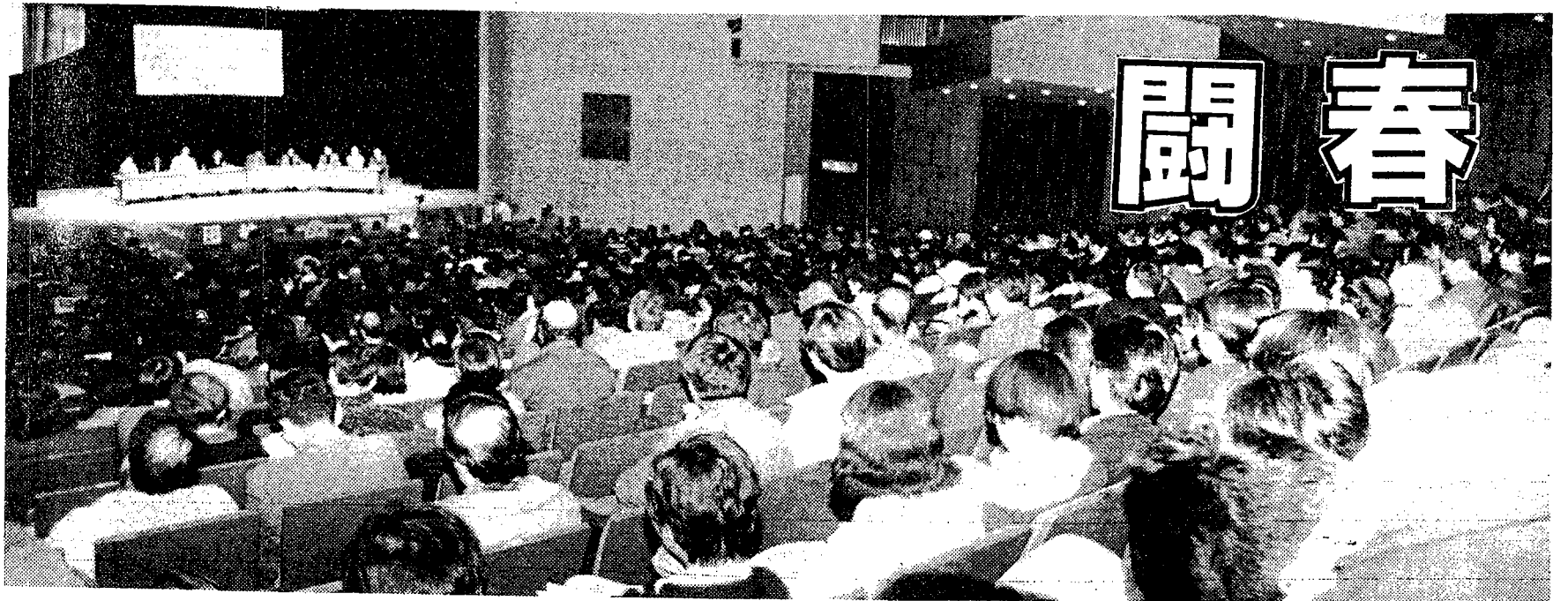


月刊 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.1.1 No. 4119



大河とならん!

明けましておめでとうございます。九四年。誰にも、嵐の兆しを予感させた年が過ぎ、新しい年を迎えました。

われわれは、この一年間、「全国にはばたこう」を合い言葉に、結成以来十五年間積み上げてきた運動の飛躍をかけて、新たな闘いに挑戦してきました。新たな挑戦とは、一言で言えば、巨大なスケールをもった歴史の転換点と言うべき現在の情勢と対決する力をもった、闘う労働運動の新しい潮流をつくりあげようということです。確かにこれは、動労千葉の力量をはるかにこえた課題です。しかし、一年を経て、この闘いは、着実に実を結びはじめています。情勢の急速な展開が、動労千葉の提起と、全国の労働者が抱く怒りや危機感を結合させはじめています。「労働運動の新しい潮流をつくろう」という動労千葉の呼びかけは、まだそのスタートラインにいたばかりです。しかし、「伏流はやがて大河とならん」の精神で、九五年を全力でつき進みたいと考えています。

戦後五〇年の岐路

今年、戦後五〇年にあたります。この歴史の節目を契機として、「平和と民主主義」を基調とした戦後の仕組みを一切合財を吹き飛ばそうとする攻撃が企まれています。すでに、国家の性格を変えてしまうような、ありとあらゆる反動法案が、九割以

上の賛成をもってどんどん国会を通過してしまうという、戦後はじめての翼賛政治状況が生みだされています。日経連会長は、「二千万失業時代」を公言し、営々とした労働者の闘いによってかちとってきた諸権利が一夜にして吹き飛ばされようとしています。また、読売新聞が、「憲法改正試案」を発表しました。「国民運動」として、憲法改悪論議をまきおこそうというのです。目の前で、これまでの常識を覆す事態が次々と起きています。

労働組合が翼賛勢力に転落したとき何が起こるのか、この間の経緯は、そのことをまざまざと見せつけました。われわれは、戦後五〇年のこの年を、闘う労働運動の新しい出発を記す年としなければなりません。

国鉄闘争勝負の年

国鉄労働運動をめぐる動きも、以上の情勢と無縁ではありません。昨年末もおし迫った「二月二四日、二〇二億スト損倍事件」の「和解」が成立したことが突然発表されました。これは、一挙に国鉄闘争を解体し、決着をつけてしまおうとする大変な攻撃です。「大失業時代の到来」とは、全ての労働者を国鉄分割・民営化型の攻撃が襲うということです。このときに、国鉄闘争が永続的に闘いぬかれていますことは、支配階級にとつて大変な恐怖です。だからこそ、今、決着を迫ってきたのです。

また、「分割・民営化十年目の総括評価」という問題を前にして、「

JR体制」の反動的再編攻撃がはじまっています。国鉄労働運動は、今年、分割・民営化攻撃以降、最大の勝負のときを迎えようとしています。われわれは、国鉄闘争が、日本の労働運動の未来を決する、重要な位置におし上げられていることを今一度自覚し、ここに、全て労働者の怒りの声を結集する闘いを実現しなければなりません。「国鉄闘争を水路に、連合路線と対決する労働運動をつくりだそう」という、われわれの提起の真価が問われています。

闘いの旗を全国に

当面、勝浦・船橋の市議選必勝に向けて、全組合員もてる力をふりしぼって起ちあがろう！そしてこの勝利を突破口として、闘いの旗を全国に翻そう！膨大な首切り攻撃にさらされようとしている労働者の怒りが、いずれ沸騰点に達することは避けられません。多くの労働者が、闘いの指針を求めて待機しています。さらに大胆に全国にはばたこう！全国の仲間たちに呼びかけ、労働運動の新しい潮流をつくりあげ、連合路線を揺るが闘いを実現しよう！

一九九五年一月一日

国鉄千葉動力車労働組合
執行委員会